

大志の学び舎

世田谷区立太子堂小学校

『教師は授業 家庭は愛情 地域で育つ 11年間』



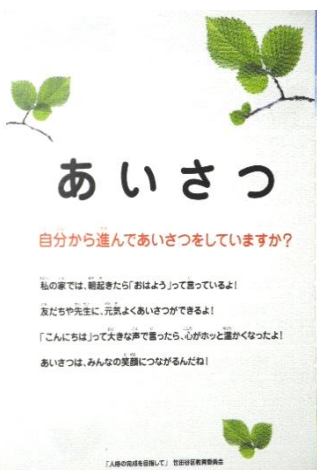
公正な木箱

校長 廣瀬 維謙

12月の目標

人格の完成を目指して
「あいさつ」

- <安全>
 - ・身の回りの
きけんを知ろう
- <保健>
 - ・寒さに負けない
体力づくりをしよう。
- <給食>
 - ・楽しい給食の雰囲気
づくりを工夫しよう。
- <あいさつ>
 - ・元気よく大きな声で
あいさつをしよう。



今年も早いもので12月を迎えます。季節は一気に冬の様相を示しながら、いよいよ師走です。

さて、背丈がバラバラの3人の子どもがフェンス越しに野球観戦をしている2枚の絵があります。「平等」と題名のついた絵では、それぞれ同じ高さの木箱に乗っています。しかし、一番身長の高い子どもは箱に立ってもまだ見えません。一方「公正」と題名のついた絵では、一人一人の身長に合わせた高さの違う木箱に乗っているため、3人全員が観戦できています。

平等の考えだけでは、公正な結果は生み出せません。個々を大切にする教育の在り方として、これほど分かりやすい例えを知りません。本来なら、100人いれば100通りのサイズの木箱を用意すべきであり、それくらい子どもたちは、いや子どもだからこそ認知の仕方や学びの速さ、方法も違います。多分御家庭では、お子さん一人一人に応じてそのような手だてをとっていらっしゃると思います。「兄弟姉妹で、なぜこんなに違うのか」というお話をよく伺うのも、そういう実態を理解されているからでしょう。

学校でも、学習や生活の場面で、子ども一人一人の実態に応じた選択肢をできるだけ多く設定しようと模索していますが、難しい場合があります。それは、世の中の様々な事案に必ず原因があるように、子どもが起こす行動にも原因があります。しかし、子どもゆえにその理由を表現できなかつたり、無意識に行動したりする場合も多いです。

また、他を慮る力量が十分に育っていないので、個々の見方や受け取り方の違いが大きく、子どもの回答だけで押し量れない場面もあります。そうすると、「分かってもらえない、気付いてくれない」と、子どもたちは悩みや不安を募らせます。その悩みや不安を解消するには、やはり子ども一人一人の心や個性に合った木箱を用意することが必要ですが、学校や御家庭でも、どうしても不十分な点が出てきます。

それを補うのは、子どもたちを中心にした「連携」という名の輪だと考えます。私たち大人全員、子どもたちのサポーターです。学校が用意した手だてと保護者の方々が必要だと思われる支援や、地域の方々のサポートが同じサイズの木箱になっているか。大きさが違って、子どもたちが遠慮せずに箱に立てる、支援を気兼ねなく受け入れられる温かい環境が作れているかを改めて確認し、太子堂小学校の子どもたちのさらなる成長に向けて、今後も連携を深めてまいりたいと考えています。

保護者、地域の皆様、本年も大変お世話になりました。来年もどうぞよろしくお願い致します。新しい年にいい夢がもてますよう、お祈りいたします。

〒154-0004

世田谷区太子堂5-7-4

電話 03(3413)4621

FAX 03(3413)4799

Email: dai004@setagaya.ed.jp